

鴻島

ニュース

ごあいさつ

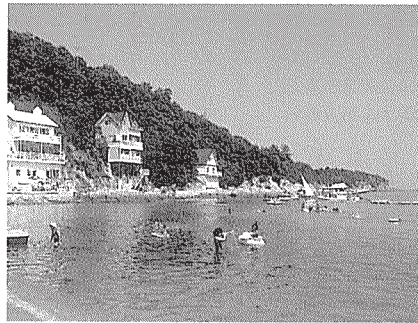
中央地区自治会長 長瀬直

新緑のまぶしい気持ちの良い季節となりました。

会員の皆様におかれましては益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

さて、今年も第16回中央地区別荘自治会の総会におきまして又、再任を受け会長をお引き受ける事となりました。役員全員も共に再任を受け今年一年、会員の皆様のご支援、ご協力のもと微力ながら運営に努めて参ります。よろしくお願い申し上げます。

昨年、めずらしく台風の直撃も無く大した被害も全くなく、おだやかな一年であったとおもいます。おかげ様で修理費用も余り発生せず予算的には、胸をなでおろした状況



です。別荘地も20年がたち、何かあれば大変だと、常に心配が起る今日この頃でございます。又、別荘地と共に会員の皆様も20年が過ぎていく訳です。くれぐれも健康に留意されて楽しい別荘ライフと美しい鴻島の景色を贅沢に堪能しようではありませんか。

第16号
— 2007 —
中央地区
自治会
広報委員会

総会報告

第16回鴻島中央地区別荘自治会定時総会が連休中の5月3日に日生小鴻島分校講堂において開催されました。出席者及び委任状を頂いた方々で97名(70%)となり、総会は成立致しました。総会は副会長の樽家さんより会計報告が行われた後、会計監査役の青野さんより監査の報告があり、その後出席者よりの質疑があった後に出席者全員に承認されました。その後役員との再任と新任が決まり、また今年度予算案が出席者全員の賛成で成立致しました。引き続き事務局の平田さんより鴻島の諸事情につい

会計報告 削除

ての連絡や説明がありました。

総会の後出席者全員による懇親会が今年も盛大に行われました。食事をしながら会員同士、一年ぶりの再会に意見、情報交換等があちらこちらでにぎやかに行われ、あつという間に時間が過ぎ、また来年の再会を約束して閉会となりました。また来年も多数の参加者が(ちなみに今年は約60名)来られますよう期待しております。そしてまた自治会の運営にもお力添えよろしくお願い申し上げます。

事務局よりお知らせ

鴻島ではゴミの分別収集が行われています。まだ一部の方が、指定通りに行っていない。自治会では、収集業者に補助金を月5万円支払って、指定通りにならないゴミも回収してもらっています。皆様の廻りの方々にもルールを守るようにお互いに気を配って下さい。念のためゴミのルールを確認しておきます。

ゴミの収集日

ゴミの種類	収集日
もえるごみ	毎週火曜日
ペットボトル トイ 紙類	毎月 第4木曜日
ビ もえない 粗大 大ゴミ	毎月 第3木曜日

- ・生ゴミ(可燃物)を備前市指定ゴミ袋(30枚1,350円)に入れて出す
- ・従来の黒かスーパーの袋ではゴミは持っていないので使用しないこと
- ・缶・ビン(不燃物)は透明な袋に入れること(スーパーの袋も可)
- ・ペットボトルはラベル・金属フタ等を取り透明な袋に入れること
- ・以上別々にゴミ袋に入れてください
- ・ゴミ箱に大型ゴミや電気製品の投入は止めてください



★会員でない人に 申し上げます。

自治会活動は会員の負担で行われています。別荘地も20年たち道路の補修や溝掃除も会費でまかっています。持主が売買によって替わった場合や知らない会員外の人たちは何も負担していません。道路や溝や車の撤去や水道の破損も全て会員たちの負担なのです。折角手に入れた別荘も公共性は高いのです。皆様相應の負担をするのが社会のルールだと思えます。島を利用するにはぜひ、会員になって頂きたいと思えます。ご近所で持主が替わった方にはぜひ説明して下さい。

★車両放置は絶対に やめて下さい。

今季は、車両の撤去を致しません。だんだん増えて通行の邪魔になっています。撤去費用は自治会で負担しています。中央地区で約20軒の人が会員ではありません。皆様の隣近所で会員外の人が車の使用をしている時、その後放置がないかよく注視して下さい。放置がわかれば自治会で注意したいと思えます。

★火事の予防のお願い

鴻島では過去20年間に6回の火事が起こっています。特に強風が急に吹く事もあり、ゴミや落葉等のたき火は絶対しない様に気を付けて下さい。お互いに注意しましょう。

～おねがい～

別荘を売却された方は次の購入者の氏名、住所を事務局平田までご連絡ください。

市に問い合わせても個人情報守秘義務等の理由により、情報を得ることができません。ご協力の程、宜しく願います。

連絡先 TEL 0869-88-1756 平田文夫(事務局)

役員名簿(平成19年度)

- (会長) 長瀬直
- (副会長) 樽家紀之
- (会計) 森 啓充
- (監査) 寺浦 格 樽家紀之
- 青野正勝
- (事務局) 〇八六九八二七五六
平田文夫
- (理事)(再任) 桑原高己
- 松井努・浅島俊男・米田稔
- 泰脩一・吉田とし子・森田孝
- 西野健一・高岸陽子・山本顕一
- (順不同)

相撲の町喜びにわく

05年岡山国体競技会場の和気

相撲の町に新たな誇り一。2005年岡山国体で相撲競技を開催した和気町は、角界入り前に町職員だった高見藤関(26)＝東関部屋＝の十両昇進が1月24日に決まり、わき立っている。ゆかりの町民たちは後援会の立ち上げを計画し、国体で全国の選手団の民泊を受け入れた“おもてなしパワー”を大相撲の土俵にも届けようと、張り切っている。(藤田勝久)



十両昇進を決め、和気町役場を訪問して花束を受け取る高見藤関＝1月26日

後援会立ち上げ計画

高見藤関の本名は横山英希さん。二〇〇三年四月から九カ月間、和気町国体室に勤務し、岡山国体開催の準備に携わった。町内の子どもにけいこをつけるなど、肉休労働もこなし、昼食の弁当だけでは足りず、役場には専用の炊飯器が備えつけられていた。

横山さんは、旧街道沿いの木造二階の民家に下宿していた。現在、住民はいないが、大家の岡崎乃子さん(六五)が時折訪れ、きれいに掃除している。洗濯物を取り込むなど、母親代わりとして、横山さんの世話を焼いていた岡崎さんの宝物は、毎場所、必ず送られてくる番付表だ。封筒に「東関部屋高見藤」と自署されている。「わが子のこのようなうれし」と岡崎さんは昇進を喜び、三月の春場所では、番付表のしこ名の文字は、幕下だった初場所よりも三倍くらい大きくなるはず。今から心待ちにしている。

所よりも三倍くらい大きくなるはず。今から心待ちにしている。祝賀ムードに包まれ、応援態勢も急ピッチで整いつつある。今月上旬にも、町体育協会や観光協会の代表者が後援会の発起人会を開き、会員募集を始める予定。関取のシンボルとなる化粧まわしも、徳永こいのぼり(同町藤野)が藤の花をあしらったデザインも用意し、全国へ「藤の町」

をアピールするという。

国体室で上司だった三村清介社会教育課長は「春場所の大阪に派遣する応援バスの手配など、準備することがたくさんある」と公務の傍ら、後援会の段取りに忙殺され、うれしい悲鳴を上げる。

国体開催を契機に盛り上がった町の相撲熱。岡山国体期間中、七百人以上の相撲選手や関係者が町内三十二地区の家庭に民泊した。地区住民は総出で特製のちゃんこ「国体鍋」をふるまい、歓迎会や激励会で演芸を披露するなど、心尽くしのもてなしを繰り広げた。感動で結ばれたきずなは今も息づき、昨年の兵庫国体でも、民泊家庭の町民たちが淡路島・南あわじ市の相撲競技会場に駆けつけ、一年前にもなした選手たちに再び熱い声援を送った。

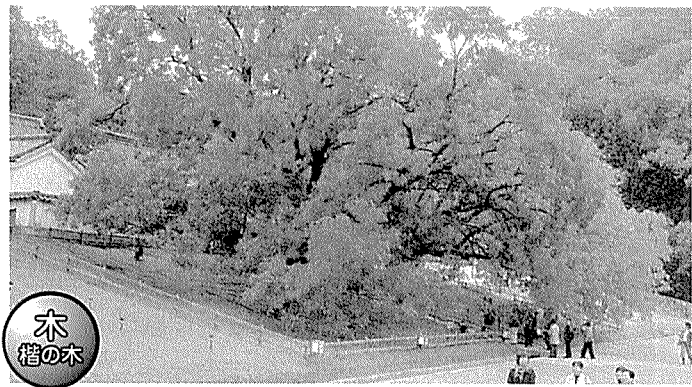
埼玉県の選手は昨年八月、民泊した福富地区へお礼に訪れ、国体出場を目指す地元の子どもたちにけいこをつけるなど、相互交流が続いている。高見藤関の誕生により、町の相撲ブームはさらに盛り上がりそう。「民泊を成功させた町民の熱気はまだ冷めてない」。町休協の藤本道生会長(七五)は元町長は話す。春場所では、懐かしい「横山」の名を呼ぶ、ひととき大きな声援が場内に響きそう。



和気町役場備えつけの炊飯器で腹ごしらえする町職員時代の高見藤関

新備前市のシンボルを制定

備前市の市木に選ばれた樅の木の鮮やかな紅葉＝2005年11月、開谷学校



(九票)だった。サツキは旧備前市の市花で、三十票を集めた。市内の山野で広く見られる点が評価され、旧吉永町のウメ(十四票)、旧日生町のヤマツツジ(十二票)を上回った。

備前市は、市のシンボルとなる木に、国特別史跡・開谷学校(同市開谷)の鮮やかな紅葉で知られる樅の木を選び、花のサツキ、魚のサワラとともに制定した。記念品を制作したり、イベントのマスコットなどに採用し、市内外へアピールする。

日生、吉永町と合併した新市の誕生一周年を機に、昨年五月から公募。市内の各種団体代表が集まった市振興計画審議会で選考し、西岡憲康市長へ答申した。百十四件(旧備前市八十九、日生町地区十三)、吉永町地区(十二)の応募があり、木、花、魚とも、最多得票の候補が選ばれた。

市木では、樅の木が三十九票を獲得。「観光客にアピールできる」「開谷学校の世界遺産登録に向け、好材料になる」などの理由が挙がり、開谷学校を市のシンボルと考える市民が多いことがうかがえる。二位は旧吉永町の木だったヒノキ(十九票)、三位は旧備前市が制定していたウバメガシ



備前市沖の瀬戸内海で漁が盛んなサワラ

市花に選ばれたサツキ

サワラの海取り戻せ

備前・日生町漁協が放流

標識付け幼魚 8700匹。サワラ流し網漁を操業している組合員十家族を中心に、県水産試験場(瀬戸内市牛窓町鹿忍)の研究者らが漁船に分乗し、いけすに向かった。五メートル四方の小割り四基では、独立行政法人・水産総合研究センター屋島事業場(高松市)で種苗生産された稚魚が十一センチ前後まで成長。組合員たちは冷水でまひさせた幼魚約二千匹の背中に、はんだごてで焼き印を施し、次々に放流した。

他の放流魚も耳石が染色してあり、天然魚と区別できる。日生町漁協は水産試験場と協力し、二〇〇二年度から放流事業を実施。漁獲した成魚の標識を調査している。〇五年度は一歳一歳魚のうち約二割は放流魚で、中間育成、放流による漁業資源養成の効果が高いことが裏付けられたという。同漁協の本田和士組合長は「かつて春になると、サワラだけでなく、サヨリやコノシロが大群になって産卵にやって来た。日生を代表する『魚島』の言葉を活かしたい」と話していた。



サワラの幼魚の背中に焼き印を施す日生町漁協の女性たち